

【アメリカ】米太平洋軍及び戦略軍の態勢に関する下院公聴会

海外立法情報課・新田 紀子

* 2013年3月5日、下院軍事委員会で、米太平洋軍及び戦略軍に関する2014会計年度国防授權計画についての公聴会が、米太平洋軍司令官、同戦略軍司令官を証人として行われた。日本に関連する部分を紹介する。

1 在日米軍再編

アダム・スミス (Adam Smith) 下院軍事委員会民主党筆頭委員 (ワシントン州) が、「アジアへの軸足の移動 (pivot)」の一部としての在沖縄海兵隊の移転及び普天間基地移設の現状について尋ねたのに対し、サミュエル・ロックリア (Samuel Locklear) 太平洋軍司令官は、「およそ 8,000 人」の海兵隊がグアム及びハワイに移転し、移転完了予定時期は、グアムが「2020 年までに」、ハワイが「2026 年までに」と説明した。普天間基地移設については、日本政府が、2012 年 12 月に環境影響評価書を沖縄県に提出し一歩進展しており、順調に進んでいると考えている旨述べた (注 1)。

マデレイン・ボルダロ (Madeleine Bordallo) 下院議員 (グアム代表、民主党) が、現在の米国の予算状況が米軍再編にもたらす影響について尋ねたのに対し、同司令官は、太平洋軍の担任区域における海兵隊の配置計画を高く評価しているが、問題はその実施であり、在沖縄海兵隊の移転は、グアムでのインフラ建設が可能となるような時間枠で進めていかなければならないと述べた。

2 中国海軍による海上自衛隊護衛艦に対する火器管制レーダー照射

ジョー・コートニー (Joe Courtney) 下院議員 (コネティカット州、民主党) は、2013年1月に中国海軍の軍艦が日本の海上自衛隊の護衛艦に火器管制レーダーの照射を行い、中国が否定している件について説明を求めるとともに、このような事件がエスカレートし、米国が巻き込まれるような事態になることは最も望んでいないと述べた。これに対し、ロバート・ケーラー (Robert Kehler) 米戦略軍司令官は、次のように述べた。この種の行動は、より大きな敵対行為にエスカレートしうる事態であったが、日本の自衛隊は、高度な能力を持った部隊であり、日本の指揮・統制、冷静な対応に敬意を表す。この問題の軍事的側面について日本側と非常に緊密なコミュニケーションを保持しており、日米が構築してきた緊密な同盟関係を示すもので満足している。また、こうした摩擦に生産的に対応できるよう、中国とのコミュニケーションの環境作りを試みている。

3 二国間・多国間の訓練・演習

ボルダロ下院議員は、現行の財政状況が太平洋軍の担任地域における二国間及び多国

間の軍事訓練や演習を制約している中で、望まれる訓練、演習について尋ねた。これに対し、ロックリア司令官は、次のように述べた。第二次世界大戦後、米国は同盟国やパートナー国との関係を基本的には二国間関係の枠組みを中心に、ハブ・アンド・スポーク体制として構築・機能してきたが、一定の戦略環境の変化と多国間関係の重要性が増大している。米国は、その意味で多国間枠組みを追求し、東アジア・サミットなどを支持しており、同盟国との関係においても、日米韓や日米豪といった3か国の活動も追求対象としている。

4 北朝鮮情勢と拡大抑止

ハンク・ジョンソン (Hank Johnson) 下院議員 (ジョージア州、民主党) が、若い指導者の登場や休戦協定からの撤退という言辞など、北朝鮮の最近の動向について尋ねたのに対し、ケーラー司令官は、非常に問題であると述べた上で、現在、北朝鮮に関する [米側の] 計画や態勢の再検討が行われていること、米戦略軍は抑止と保証の任務を果たし、米国の同盟国に対する拡大抑止を提供することに自信を持っていること、北朝鮮からの限定的なミサイルの脅威には既設の弾道ミサイル防衛で対応できるなどを回答した。

注 (インターネット情報は 2013 年 4 月 18 日現在である。)([]は筆者による補足。)

(1) 在沖縄海兵隊のグアム、ハワイへの移転人数、時期、また、普天間基地移設に関する動きについてのロックリア司令官の発言については、公聴会とともに、同司令官より、本公聴会に関して下院軍事委員会に提出された書面証言 (<<http://docs.house.gov/meetings/AS/AS00/20130305/100393/HHRG-113-AS00-Wstate-LocklearUSNA-20130305.pdf>>)を参照した。

・ 本公聴会の模様は<http://armedservices.granicus.com/MediaPlayer.php?view_id=2&clip_id=170>参照。